

第4回渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会
質疑応答 議事録

【実施日時】2017年10月19日(木) 19:00-21:45

【開催場所】渡嘉敷村役場(大会議室)

【出席者】委員(敬称略)

小嶺哲雄(策定準備委員会委員長)、小嶺国土、
水澤豊子、中馬直樹(代理:田中守)、
吉崎誠、金城肇、金城渉、池松来、長谷和典、花咲宏基
オブザーバー:古波蔵善之介
事務局(敬称略)

渡嘉敷村):玉城広喜、内野珠子

ライ):草間亜沙子、黒岩考自、山岸彩夏、本盛聡、諸崎そよか

石川):石川武男(コーディネーター)

JTB):神谷和幸、池原和也 計 21名

小嶺哲雄 委員長)

少し時間が早いですが早速始めたい。お忙しい中集まりいただきありがとうございます。
先々月の第3回準備委員会から2ヵ月が経過しています。この間、ライヴスがまとめたた
たき台をもとに理念の決定、各種具体的な検討、19-21時まで議論をしていただきたい
い。前回の意見をくみ取って提案されている資料は事前に配布もされていると思いますが、
できるだけ本日の会議でまとめ上げていきたい。

石川)

今日の目的として、理念、スローガンを作っていきますが、皆さんからその言葉、意見を
いただき、決定まで行いたいと思います。

その後に、施策、体系を議論し、理念、スローガンを具現化する具体的な取り組みについ
ても意見を含めてまとめていきたいと思います。

ライヴス黒岩)

<事務局の紹介。JTB 沖縄。ライヴス研修生の紹介。>

それでは、本日の目的と今後の流れについて説明します。

先程、石川さんから紹介がありましたが、本日は、理念そして具体的な取り組みについ
て議論する。

今後の流れですが、今日の準備委員会で、理念、体系図の確認をいただく。観光関連の役

場の部署の方々にヒアリングをしたものを、整理しているので、もう一度、各部署にフィードバックし、作り込んでいく。

そして、11月8日に策定委員会と準備委員会で合同委員会を開催する予定。

その際に、素案をご提示したい。11月8日の合同委員会の意見を整理した後、12月上旬から中旬に、村民の皆さんから、パブリックコメントとして意見をいただき、1月には製本に入るような流れとなっております。

石川)

皆さんからいただいた意見を踏まえた、基本理念のライヴス案について説明します。お願いします。

ライヴス黒岩)

前回の理念案につきまして、いろいろなご意見をいただいた。渡嘉敷のイメージが伝わる言葉が欲しい、包括できる言葉、住む人来る人にも伝わる言葉が欲しい等いただいたご意見をもとにまとめる中で、渡嘉敷について改めて考えてみた。しかしながら、まとめることが難しいので、渡嘉敷とは何かを考えた。渡嘉敷には何があるか、海がある、自然がある、宿もある、いろいろな人が出会う機会もある、特産品もある、修学旅行生も来ている。現在プロモーション活動も、都内、横浜で行っているが、日本全国様々な方々にとかしきをPRしているなかで、多くの方が「人がやさしい」ということをおっしゃっていたことが印象に残っている。渡嘉敷の魅力を表現する言葉として、やさしや、ふるさとという表現を使い、前回と異なる表現になっているかもしれないが、「世界にひとつしかない里島とかしき」と「世界にひとつしかない里海とかしき」の2つを事務局案として挙げた。

誰もが自分のふるさととして、大切に思ってくれる場所、心満たされる愛着のある場所と思えるよう、世界にひとつしかない“里島（さとしま）”とした。

里山、里海という言葉がある。人が手を加えることによって、自然の環境がより良くなっている環境を言います。渡嘉敷には合っているのではないかと考えた。里山、里海を総合的に表現できる言葉として、里島という言葉造語を作った。

里島には2つの意味をこめた。

1つは渡嘉敷島の特徴でもある海、山、を含めたイメージ。バランスを保って自然を守って生活している。やさしさに溢れた島。もう1つは誰もが島民以外の人、故郷のように渡嘉敷を身近な島に感じて欲しいという願いも込めてつくった。“世界に一つ”、という点については、慶良間諸島の中で座間味島の「世界が恋する海」と呼応する形で、敢えて“世界に一つ”という大きな表現を使ったのは、渡嘉敷には、他では味わえないものがある。渡嘉敷を強調する意味も含めてこのような表現にしている。

石川)

事前に資料をお配りして、皆さまにご意見をいただいたところ、これをポスターにするのかなどご質問をいただいたが、事務局どうですか。

ライヴス黒岩)

これは観光振興計画策定で、村の指針を示すスローガンの位置づけなので、村の方針と言うことを軸として、まずは計画の中で使用することを中心に決めていけたらと思う。

花咲宏基 委員)

委員の皆さんから、ポスターのキャッチコピーに使うのかというお話もありましたが、優先順位としては、このスローガンをもとに、策定準備委員会の皆さんと作る計画を、村民の皆さんと一緒に実行するという。心ひとつにするというスローガンにする。

石川)

スローガンについて感じていることについて、一人ずつ意見をいただいきたい。サブキャッチについても、こういう要素を入れて欲しいということがあればご意見をいただきたい。

今回決めたいのは、メインのスローガン。

自分たちがなりたい、ありたい姿と言うことを中心に考えていただきたい。

事前に池松委員から資料をいただいているので、池松さんからまずご意見をいただきたい。

池松来 委員)

“世界に一つしかない”という大きなイメージがある言葉に続くのが“さとしま”というのが、違和感があり、つながらない感じがある。似た言葉で里山、里海などがあるが、人間が生活するために手を入れて、人間が継続して利用することからきているので、もとある姿を自分たちの都合のいいように変えているのが“里”のイメージ。私は広島出身ですが、瀬戸内海の島の方が、イメージに合っている。

折角、“世界に一つしかない”という言葉を使うなら、“宝島（たからのしま）”が良いのではないか。ここ渡嘉敷の海のイメージは、“宝島（たからのしま）”の方が合う。

メインのスローガンが変われば、サブも変わる。

今あるきれいな環境を守っていく、数値化していくので、住民もきれいな環境を守る努力をしていく、ここに来る人たちも一緒に取り組んでもらうような感じがいいのでは。

世界中から見ても稀な環境で貴重な自然の宝庫であることを強調したい。私は、自分たちは残していく責任がある、守る責任はあると思っている。これ以上破壊はしないのだという、意思を示したい。そのために住んでいる人も工夫したり、来る人に共感してもらえたり、一緒に取り組んでももらえたら良い。ちょっとした気を配ることだけで、変わってくる

のではないかと考えている。

水澤豊子 委員)

“さとしま”という造語がいいなと思った。里山、里海という言葉は聞き慣れ、イメージがある。里島という新しい言葉でサブのところから引き出した言葉としてはいい。里島、里海は人間が中心なので、環境への配慮の点については注意したほうがいい。

金城肇 委員)

難しいのは、どこに向けて発信するかによって言葉も表現も変わってくる点。ここは沖縄、慶良間ということで、渡嘉敷の島ことばをいれてはどうか。方言を使うことで相手に印象付けることもいいのでは。一番いいのは宝という言葉。宝をどのように守っていくのか、海、山、川など、それぞれで守っていかなければならない。そのうえで住民が率先して、意見が統一され、保全していくものは保全する。日本人向けだと“宝”がいいのではないか。渡嘉敷言葉が入っても良い。

小嶺国土 委員)

メールで資料をもらい、見た時、“さとしま”という言葉がいいと思った。キャッチフレーズとしてはこの内容でいいと感じている。しかし、皆さんからの意見で新しい情報を入れるとなるほどという感じになる。

最初に見た時は、今までの話の流れで良いのではないかと思った。造語で作ってもらったほうが、渡嘉敷オリジナルでつくったことも PR になるのでいい。

最初に見たときはいいと思った。

石川)

わかりやすいものとわかりにくいものを一緒にいれることで興味を引くという点は面白い。

中馬直樹（代理：田中守） 委員)

里島という言葉自体はいいと思う。私も外部の人間なので、外目線で見たときは、池松さんに近いと思う。自然を大切にする、守るという言葉が入った方が良い。村民、島民全体の声として活かすためには、渡嘉敷自体が手つかずの島ではないので、何百年と島民が手をいれたものであるというイメージの方が、島民には入りやすいし、そこに観光を重ねていくと、島民に受け入れられやすい。

方言などで沖縄のつなぎことばなどが入ると、村民が自分たちのスローガンとして受け入れやすい。

石川)

沖縄の方言と言うと、例えばどんなことばがいいか。

中馬直樹（代理：田中守） 委員）

観光関係の場では、いろいろな言葉を目にする。どれもいいと思う。言葉の説明からその土地の説明に繋がるものがあるのではないかと。

吉崎誠 委員）

“さとしま”という言葉はシンプルに言うと格好悪いと感じた。ポスターでイメージしたらあまりよくないと感じた。他に里島と書いて“りとう”と読ませている他自治体の例もあり、二番煎じ的な感じがする。座間味島の「世界が恋する海」と比べてみると、どちらが魅力的に感じるかとなると、座間味のほうがいいと感じる。

一時期、渡嘉敷の船で、「心ふるえる島」というキャッチコピーが使われていた。それぐらいシンプルな感じがいいのではないかと思います。歴史もあったり、体験もできたり、理由は後付けでもいいと思う。

長谷和典 委員）

池松さんの未来に向けて島を守るということを理念のメインに入れた方がいいと思う。観光客が増えて、以前と比べて観光客に注意をする機会が増えている。ごみや釣り道具をそのままにしているなど。ウミガメは卵が食べられてしまっている。渡嘉志久ビーチのウミガメは、昔は、十数匹の個体数だったが、今は、片手で数える数になっている。このままの観光を進めたら未来がない。ウミガメも5年したら渡嘉志久から消えると思うぐらいだ。メインに、観光客に対しても、島に入るときに意識してもらえたい言葉にしたい。100年先まで楽しめる渡嘉敷島など、100年先まで自然を守るというフレーズをいれて欲しい。座間味のようにかっこいい言葉にもしたいが、座間味の方の話を聞いても、観光客のマナー、住民のマナーを、ここで変えないと慶良間諸島は、10年先はないと思うので、渡嘉敷村には、“自然を守る”という方針としてだしてほしい。

金城渉 委員）

「帰っておいでよ ○○島 渡嘉敷村」。やさしさとか、商業戦略的に言えばリピートしてほしい。島の皆さんの意見も長期滞在してほしい、宿泊してほしいという意見も多い中で、日帰りが多い現状。観光で来て、次は、どこに泊まってみたいとか、なにを体験したいとか、次はゆっくりしてほしい。リピートしてほしい。商業戦略的にも言葉を通じて、島としてはリピーターを欲しいというニュアンスが伝わるといい。僕の中では、観光は、目的があって、パンフレットを見たり、テレビを観たり、行ってみたいところに一度行くのが観光。そこで、何かを探して、拾って、自分のものにして、次の目的で、もう一度行くことがリゾート。リゾート化したい。観光で集客して、見てもらって、日帰りでも、修学旅

行でも、次はリゾートとして来てほしい。リゾートというのは、長期滞在。もしくは、宿泊。こういう旅館を見つけたので、次、泊まってみたい。地元のおばあちと会ってみたい。修学旅行で体験したものが、大学に入ってサークル仲間と来てみたいとか、恋人と一緒にいきたい。傷心旅行も。

花咲宏基 委員)

方言を入れた方がいいというような意見があったが、国頭村は国頭を意味する「くんじゃん」という言葉を使っていたので、渡嘉敷でもそういった言葉を入れてもどうか。例えば、「帰っておいでよ」は、渡嘉敷ではどういう言葉を使うのか。

金城肇 委員)

役場の会計課のカウンターの下にも、“イチハナリ”という言葉がある。それは、伊計島からラインを結んだところのイベントのコピーで使っているが、“イチハナリ”はすみにくい地域、島などを意味する。言葉のくぎりもいいような感じがする。“イチハナリ”のような言葉が渡嘉敷にないかなと思う。

花咲宏基 委員)

帰っておいでよ、を沖縄の方言にするとどうか。

金城渉 委員)

沖縄の言葉を入れるのは、沖縄ブームだが、そのブームは、あと数年だと思う。海外にも発信するために、シンプルな日本語がいいと思う。あえて沖縄の言葉を出して、沖縄の色を出すのは、時代遅れではないか。

石川)

追加で意見はあるか。

小嶺哲雄 委員長)

理念を表現するのは 1 行では難しい。観光客向けのフレーズと、島の人向けのフレーズを並べて 1 つの理念にするというのでも良いのではないか。

国立公園満喫プロジェクトでは、リトリートという言葉を使っている。非日常の世界を体験するという意味。この島に来て、普段味わえないことを味わえる観光という意味を込めた方が良い。自然であったり、レジャーであったり、非日常を感じてもらおう、そういった意味が伝わる言葉を入れてはどうか。

石川)

観光客に刺さるものと、島民の皆さんへのメッセージ。島としては、それぞれを意識したメッセージが良い。

“世界に一つでは～”については、両方の意見を入れているということによいか。

ライヴス黒岩)

村民の皆さんに対して、自分の島に注目していただきたい。外部の人に対しても伝わるメッセージが良い。

ライヴス草間)

加えて、帰ってきてという思いも込めて“里”にした。

石川)

宝の島と言う意見があったが、それは自分たちに向けた言葉か。

池松来 委員)

私の感覚では、島のものではないし、観光客のものでもない。どこから見ても、一つしかない宝もの。

石川)

“心ふるえる”という意見についてはどうか。

小嶺哲雄 委員長)

感動するという言葉で、良いと思う。

“心ふるえる”という言葉は、インパクトのある言葉。わくわくするという意味でもある。

石川)

100年先まで楽しめるという言葉は。

長谷和典 委員)

100年先は、自分たちの決意を示したスローガンでとてもいいと思う。

金城渉 委員)

環境保護という意味でいうと、一見さんで引っ掻き回されるよりも、リピーターの方を増やした方が、環境保護については訴えやすい。

一見さんよりリピーターの方が、上から目線の言葉になるが、環境保護を主導しやすい。また、リピーターで安定した方が、商売的にも安定する。

島全体が、どういう方向に進んでいくかという、島全体としては、リピーターを求めていると思っている。“世界に一つ”という言葉は、インパクトがあり、集客力があるかもしれないが、一見さんが、ぐるぐる回るのはどうかなと。正直言って、一見さんはいらないと僕は思っている。誰にでもではなく、リピーター向けの発信の方がいいのではないか。修学旅行についても次にまた来てもらうように伝えることが必要と思う。この島を好きになってもらえば、リピーターになる可能性が高いと思う。環境保護にも取り組みやすい。

小嶺哲雄 委員長)

金城(渉)さんがおっしゃった「帰っておいでよ ○○島」の「○○」に、夢島はどうか。とかしき祭りの時に使うテーマソングを公募したときに出てきた言葉。この言葉が出てきた時に、“夢島”を聞いただけで、渡嘉敷島のことを思い出す。渡嘉敷では長く使っている言葉。

今いいフレーズがたくさんあるので理念に入れてもいいし、例えばポスターなどに使ってもいい言葉が出てきているなということで感動している。

ライヴス黒岩)

とかしきの人には浸透しているのか

小嶺哲雄 委員長)

CDもあります。祭りなどでも使っている。このテーマソングをバックに太鼓も叩いている。もう20年前くらいから。

金城渉 委員)

そういったものを、しまんちゅうにもっと出してもらいたい。蓄積したものを出してください。新しいメンバーも多いので。

石川)

“さとしま”は消して考えてみる。この中で組み合わせるといいというものはあるか。

長谷和典 委員)

“心ふるえる 夢島”はどうか。

水澤豊子 委員)

歌の歌詞の中に、何か言葉がないか。

小嶺哲雄 委員長)

その歌詞には、“渡嘉敷島”という言葉は出てこない。“夢島”しか出てこない。“夢島”が“渡嘉敷島”を表している。

長谷和典 委員)

ほんとにこの自然を守っていく島というのを大々的に前に出したい。この自然は絶対無くなっていくものなのを、何とか残していきたい。

石川)

今、“100年先に伝える 夢島 とかしき”、“心ふるわす 夢島 とかしき”、“心ふるえる 夢島 とかしき”と出て来ました。

先程、小嶺課長が、2行で表現するという話をされていましたが。

長谷和典 委員)

“心ふるわせる島 とかしき”のサブで、～を使って、“100年先に残す”という組み合わせはどうか

花咲 委員)

先ずは、“心ふるえる”、“心ふるわす”のどちらが良いですか。

複数の委員)

“ふるえる”がいい。

小嶺国土 委員)

100年先へ～と言うところを沖縄の方言で、子や孫の言葉で表現してはどうか。

小嶺哲雄 委員長、金城肇 委員)

子孫は、くわんまが。

100年先のくわんまが。

長谷和典 委員)

100年先までの方が良い。

石川)

皆さんが言いたいことがはいつているかが重要である。

長谷和典 委員)

100年先という言葉が未来と言う言葉で表現してはどうか。

小嶺哲雄 委員長)

100年先へ…という部分を、沖縄の方言で、“さちぬ世”という言葉がある。

金城渉 委員)

さちぬ世はあの世をイメージすることにならないか。

小嶺哲雄 委員長)

繋ぐという漢字を、“結”という漢字を使ってはどうか？沖縄ではよく使われている。

長谷和典 委員)

未来へという漠然としたものよりも、100年という具体的な数字を入れた方がいいのではないか？

吉崎誠 委員)

環境を守っていくというようなことを表現するためにも、“この碧を“というような、海以外の島全体を含めたような表現をしたらどうか？

金城渉 委員)

環境保護の心意気が出ているので良いのでは。

金城肇 委員)

100年先へ結ぐという点が、村民の決意が含まれている感じがして良い。

吉崎誠 委員)

配列をもう少し検討してはどうか？どの言葉を前に持っていくかを変えてみるなど。

石川)

今出てきたアイデアについて、心ふるえるものを選んでいただきます。

- A. こころふるえる夢島とかしき～この碧を、100年先へ結ぐ～
- B. こころふるえる夢島とかしき～この碧を結ぐ、100年先へ～
- C. こころふるえる夢島とかしき～この碧を未来へ～
- D. とかしきこころふるえる夢島～この碧を、100年先へ結ぐ～

どれがいいか。

- A 4票
- B 1票
- C 2票
- D 2票

Aに4票入った。

花咲宏基 委員)

合同委員会の時に、このA案のみで良いか、もしくは2票入ったC、D案も含めて提案するか。

金城渉 委員)

ここで、1つに決めていいと思う。

池松来 委員)

きれいな写真に文字をのせて見てみたい。

吉崎誠 委員)

夢島が、漢字がいいのか、平仮名がいいのか。

小嶺哲雄 委員長)

前回の委員会で、“とかしき”は、平仮名にしようと話し合った。渡嘉敷を漢字にすると、固くなるのではないか。

候補に出たのは、控えておいてください。ポスターのコピーになりますから。

石川)

皆さん、“こころふるえる夢島とかしき～この碧を、100年先へ結ぐ～”でよろしいか。よろしければ拍手をお願いしたい。

(一同拍手)

石川)

次にこれをどう実現していくかについての取組案について、はじめに説明をし、読み込む時間をとりたい。

ライヴス黒岩)

基本方針について、5つ項目を立てている。自然環境保全・活用、観光客受け入れ体制、観光メニュー、地域ブランディング、誘客プロモーションの項目を立て振り分けている。自然環境保全の中では2項目、自然にやさしい島づくりの推進については、渡嘉敷村の自然環境保全に向けた美化活動を行うとともに、家庭内から出たゴミの分別の徹底を行い、自然環境に配慮した取組みを進める。エコツーリズムの推進については、渡嘉敷村の最大の魅力である豊かな自然環境を守るため、体験を通じた自然への理解と、観光ルールの周知・徹底による自然との共生を目指した取組みを進める。の2軸を設定した。

次に観光客受け入れ体制の項目で、こちらは一番要望が多かったので5つを設定した。外国人を含めた渡嘉敷村に来る様々な観光客に対して、丁寧で満足度の高い受け入れ体制を整備する。次に、利用環境向上に向けた基盤整備の充実では、離島ならではのWIFI環境の不便を極力減らすとともに、初めての観光客を的確に案内できるような案内標識等の設置や、既存施設の維持管理を進め、快適な観光が行える基盤整備の充実を図っていく。

3つ目は各種予約システムの構築である。渡嘉敷島への来島の際のはじめの窓口となる船舶の予約サイトの改善と、宿泊・飲食店の予約サイト・ネット環境・ルールの構築により、利便性の向上を目指す。4つ目は交通網の充実となり、島内の移動、島間の移動が円滑に行え、かつ、島内を楽しんで巡り、周遊できる交通網を充実していく。5つ目に、避難対策の整備として、地元住民だけでなく、観光客に対してもわかりやすく、安全に避難が行えるように案内板の設置やマニュアル作成等の避難対策を整えていく。

次に観光メニュー項目として、とかしき全体を活用した、四季折々の観光メニューづくりとしている。その中で、観光メニューの創出として、渡嘉敷村の有する自然や歴史文化、人を最大限に活用した年間通して楽しめる観光メニューを創出していく。

次に、地域ブランディング項目として、島の特性を活かしたブランディングの推進となる。まずは、渡嘉敷村としてのブランディングとして、地域特有のお土産の開発や、観光客へのマナー周知・徹底を行うとともに、渡嘉敷村の個性が発揮され、価値を高めるための適切なブランディングを行っていく。次に、慶良間諸島全体としてのブランディングとして、座間味村との連携を図り、共通のブランディングの方向性を定めていく。

次に誘客プロモーション項目としては、まず情報発信の充実となり、村の現状や魅力をリアルタイムで発信していきながら、観光客の呼び込みを進めていく。次に誘客プロモーション活動の推進となり、現在活動している修学旅行生の誘客を継続的に推進するとともに、旅行博等のイベント参加も積極的に進めながら、誘客に向けた活動を推進する。また、他自治体との交流機会の創出を検討するとともに、村内の観光事業者や一次産業事業者等の異業種交流連携を推進し、観光の魅力を高めていく。

村内で今回、各課へヒアリングをさせていただき、その内容を含めている。また上位計画の内容を入れた。また、観光事業者等の要望を入れ、最後、弊社で整理した。また加えて弊社から必要と思われるものを入れている。

参考にした提案者と上位計画については表中に示している。

まだ読み込まれていない方もいると思うので、5分ほど時間を設け、そのあとで皆様からの意見をいただけたらと思う。

石川)

今、決定したスローガンを踏まえて、それを実現するための取り組みとして再度漏れがないか見ていただきたい。ちなみに、ふるえる＝感動を抱く、おもしろいが生じる。つなぐ＝まとまるように結ぶ、という意味になると思うのでそういったものを踏まえて、漏れがないかも含めてみていただけたらと思う。アイデアを出していただきたい。何かわからないことは黒岩に聞いていただけたらと思う。

こちらについても池松さんから事前にご意見いただいていたので、資料と共に発表いただきたい。

池松来 委員)

1-1 美化の項目、美化活動については、いろいろなところに配慮が必要だと感じる。もっと踏み込んだ積極的な取り組みが必要。

家庭や事業で出したゴミ、排水についても配慮が必要。

漂着ゴミの問題もある。これについては、今は、積極的に取り組んでいないので、積極的に取り組んでいけば、100年先に結ぐに、よりつながる。

僕の考えていることとしては、今の生活を、もう一步深く進めて、環境について考えて行動しないといけない。今、現状、良くなっているとは思わないし、今の我々のやり方は、間違っているか足りていないかと思うので、もっと踏み込んでやっていきたいと思っている。例えば、本島から買って来たものが島ではごみになる。ペットボトルではなくガラス瓶を使用してもらうことや、また、段ボールで入ってきているものでも返せるようなコンテナ等を使用してもらうなどができれば、ごみは減ると思う。

2-1-1 観光協会については、観光の窓口になる機関については、今作っているこの計画を体現していかなければいけないので、その目標や仕事の範囲などはこれに基づくものにならなければならない。この会議で積み上げてきた議論と、観光協会の方針が同じ方向を向いて進んでいく必要がある。

2-4-1 船の大型化の整備について。人数が多い時期に手一杯の感があるので、船の大型化や増便は入域人数を増やすのは、繁忙期と閑散期の差を広げ、ピーク時の混雑を助長

することになる可能性が高いので慎重に考えるべきである。人数を絞って、質を上げ、年間を通して、平準化するなどの取組が必要だと思う。

3-1 課題は夏場の忙しい時期の対応が同じようにある。

地域ブランディングについて。今の渡嘉敷村のパンフレットを見ても、座間味とは別々で作られており、同じ慶良間諸島で近くにあるイメージがない。世界地図、日本地図を見れば、慶良間諸島は一つの島に見える。渡嘉敷は渡嘉敷の、座間味は座間味の、特色を出そうと、違いを出そうとしているが、遠くから見れば一つ。この次の段階だと思うが、慶良間が慶良間として世界に売り出して、選択肢として、渡嘉敷があり、座間味があり、阿嘉があり、慶良間があるように見せることが必要ではないか。将来的には同じ方向性で一緒にやっていくことが必要だと思う。今の段階では渡嘉敷は渡嘉敷で自分たちがしっかりやっていく必要がある。

5-3のプロモーションに関して、マスに対してのPRも大事だが、一見さんは必要ないという思いは、正直なところ。他で活躍している観光大使との連携や、魅力ある地域同士がジョイントして交流を作り出す。ウミガメやクジラ、サンゴの保全、漂着ゴミ等同じ課題を抱え取り組んでいる地域との交流ができれば、同じ方向を向いている人たちを呼び込める。プロモーション先ではないか。年間10万人の観光客が来ていて、マスに向けてPRする方法もあるが、ターゲットを絞り込んでPRするのも大事。

付け加えると、1については、自分たちの感覚ではなく、環境の専門的な部分については調査やモニタリングを行い、その結果を世界に共有するような形でやっていかなければいけない。

景観や街並みについて、阿波連地区については特に重要と考える。最近、個人的に渡名喜島に行ったが、景観を取り戻そうという取り組みがされている。阿波連の街並みは老朽化も進み、世代交代も進んでいる。協力も図りながらの取組が必要だと思う。特に時間やお金がかかるところなので、この計画に踏まえることができたらいいなと思う。

1-2-1 サンゴ移植についての記載はあるが、最近では時代遅れと言われている。最近の研究会で、費用対効果もないと言われている。啓蒙活動くらいしか効果がないというのがサンゴの専門家の意見となっている。海に流れ出る栄養塩での問題について予算をつけるところではないか。やることは悪とは言えないが、実施については全体での議論が必要だと感じている。

水澤豊子 委員)

ここに記載してあるのは、我々からは出していないですよ。ニュアンスが違っている。サンゴの植え付けは村がやっている。一般向けにはやっていない。無人島キャンプについても一部なので、これだけをやっているわけではないので、これでは伝わらない。全体ではない。取り組みとしては、幼児から大人まで広く一般の方が自然の中で様々な体験をしているのでそのように書き代えてほしい。イベント的なものだけではなく、通常受け入れ

ている方たちにも体験を提供している。そこが、クローズアップされるようにして欲しい。例えば自然体験の実施については、“場の提供”とか広がりのある表現でどうか。表現の修正をお願いしたい。

全体については、村の観光として質なのか量なのかという点について、船の大型化等、方向性を定めた上でスローガンも含めて慎重に検討が必要と考える。県内色々な場所を訪れているが、水納島などは、島の周辺にはきれいなサンゴ礁があるが、実際に観光客が足を踏み入れることができるのは、こんな所に来たくなかったなと思わせるような場所に制限された形で観光地化されている。

しかし、渡嘉敷島が目指すべきところはそういった観光地とは違う感じがする。安売りせずに価値をどう上げていくかというところ。日帰り客が増えているが、お金を使っただけなので、もう値段設定も含めて検討が必要と思う。観光大使についても有名人だけではなく、村民ひとりひとりが観光大使になる取り組みがあっても良い。

金城肇 委員)

渡嘉敷の観光について、年間10万人を入れることを村が目標に掲げているということに疑問を感じる。質の問題を考えてもらいたい。質というものには経済効果もあるし、環境もある。“夢島”の質とは何かを考えていきたい。

ウミガメなどもイノシシに卵を食べられている現状もある。世界的なデータのもとで、科学者を入れて、保全・保護策なども世界的なレベルで進めていく必要があると感じている。ガイドの話が出てこない。次世代のガイドが出てこないのが課題。案内することができていない。一番響くのは、村民全体がガイドとして、ひとりひとりが対応するとその島の質が上がると思っている。

小嶺国土 委員)

担当課としては特に意見はない。

この羅列されている計画を進めるときに、全体的なチェックも必要だと思う。全体の進捗管理をするために。皆さんの議論している量と質を決めるところを、どこで誰が話し合うのか。

量なのか質なのかという点についてはどこで決めるのかというのが疑問。

船舶課としては、年々観光客が増加しているが、人が入れば入るほど運賃は下がるシステムになっている。公営なので黒字にはならないようにするシステムになっている。

黒字になっている部分については、料金の値下げで反映しなさいという指示が来ている。そういった点も含めて、量にするか質にするかについては、船舶課としては判断できない。

花咲宏基 委員)

環境協力税を上げることについてはどうか。

小嶺哲雄 委員長)

船舶課の管轄ではない。目的税なのでそこで調整するのは難しい。

総務省に申請して認可されているもので、目的を変えてあげるとは、ハードルが高い。

小嶺国土 委員)

増やすのか増やさないのかという議論をどこでやるのかというのが疑問。

今後も継続して協議が必要ではないか。

どこで、協議するのかを、この計画に入れるべきではないか。

船舶課としては、量なのか質なのかの状況に応じて、対応ができる。

船舶課としてもたくさん入ってきている状況だとは思っている。

このあたりの議論はしっかりとしないといけない。

小嶺哲雄 委員長)

計画ができた後に、進捗は検証する。3年ごとなのかチェックする時間軸並びに検証する組織を、この計画の中に盛り込まなければならない。

花咲宏基 委員)

どういうチェック機能をつけていくのかは次回以降提案していきたい。

中馬直樹 (代理：田中守) 委員)

意見だしとして、1の環境に対する取り組みの厚みが非常に薄いと感じた。項目が少ないからなのか。今後、環境と観光の両軸で考えると同じくらい必要ではないか。観光＝環境破壊につながることもあるので、お金に繋がる環境保全も必要ではないか。提案者についてはすそ野が広がったほうがいいのではないか。今意見に入っていない課についても意見を求めた方がいいのではないかと思う。チェック機能の前に、これをやったからこれにつながるというような、各項目同士のつながりが欲しい。KPI的な指標が必要だと思う。

吉崎誠 委員)

それぞれの意見を出していくとなかなか進まないと感じる。

きれいな島をつくることに、美化活動に対しての負担がかかっているので考えなければいけない。ゴミの処理は特にお金がかかる。ゴミが増えたときの財源等について、現場の意見も踏まえて考えていく必要がある。実際に、去年、今年と、どのぐらい費用が掛かっ

ているのか、現場の声を聞いてみたい。

エコツーリズムの響きがいいが、実際は外向けに書かれているので、村民に対しての取り組みについてもいれていかなければいけないのではないか。村民に対する教育は必要ではないか。小中学校の学校機関等も含め総合的に考えた方が良い。そこから島全体が変わっていくと思う。他にもたくさんあるが、みなさんの意見に近いところ。パンフレットやチラシの費用対効果について気になっている。今渡嘉敷が作っているパンフレットも、ごみになっていることもあるのでそのあたりの検討も必要。

長谷和典 委員)

エコツーリズム推進に関して、自然を残さない限り先がないので、ルールを村として出すなどの取り組みが必要。ルールの統一性を持っていないかぎり守ることはできない。田中委員がおっしゃったように、自然環境保全の部分が薄すぎる。渡嘉志久ビーチはルールがない。遊泳区域もない。村としてのルール決め、それを事業者がお客様に強く案内できるようにしてほしい。環境の部分について追加してほしい。

金城渉 委員)

実行にあたって、財源と組織体を並行して作っていかないと実効性がない。特に、組織体である観光協会は商工会からの要望となっている。これは行政が中心となってやるんですよね。

小嶺哲雄 委員長)

聞き取り調査の中で商工会からの要望として出ている状況。

金城渉 委員)

本来は行政が中心となってやらないといけない。私は商工会に加盟しているわけではないので分からないが、那覇商工会議所で活動していて、商工会議所と観光協会は別組織と分かる。

島の中で、商工会と観光協会がリンクしていることが分からない。

中馬直樹 (代理：田中守委員))

観光協会については、立ち上げの経緯については地域ごとに違う。

観光協会が出来上がってから、商工会と一緒に業務を進めている地域もあるし、業務を別々に分けている地域もある。

金城渉 委員)

那覇商工会議所でしか活動していないが、商工会議所、商工会は、経営者の支援、スキル

アップ等を行うことが事業。それなのに、商工会が主体で、観光協会を設立するニュアンスがあるのでは。一旦、商工会と観光協会は、切り離さなければならないのではないかと。

小嶺哲雄 委員長)

観光協会をつくるのは行政が主体となって行っていく。これまで商工会が、観光協会が本来担うべき業務を行っていたため、そういうところからの要望である。

観光協会の設立準備には、商工会と観光協会を切り離す。

ただし、渡嘉敷の場合は、ほぼ、商工会と観光協会の会員のオーバーラップが起こる。

観光協会と商工会のすみ分けは、しっかり行う。

金城渉 委員)

ずばり聞きますが、商工会の中での観光協会の勉強会や準備委員会などがあるか。

中馬直樹 (代理：田中守) 委員)

商工会として準備委員会などは立ち上げていない。商工会からは行政に対して、行政が主体で観光協会を立ち上げて欲しいとの要望は挙げている。観光協会については、理事会では議論にはなるが、準備委員会は作っていない。

金城渉 委員)

商工会は、各々の会員が観光協会に係わるメンバーとしてオーバーラップすることはあっても、観光協会とは別物でいいということですね。

小嶺哲雄 委員長)

観光協会を設立する中では、商工会の今までの観光協会の代わりとしての業績をどう活かすかということもあり、商工会のメンバーは入るが、観光協会設立については、別の場を設けて検討していく。

金城渉 委員)

この策定準備委員会で議論された計画は、どこに反映されるのか。

小嶺哲雄 委員長)

公募になるか分からないが、観光協会設立に向けての準備委員会に観光事業者に入っていたら、現在作成中の計画の実施のロードマップを作ってもらおう。

金城渉 委員)

村長がおっしゃっていた、3月立ち上げというのは。

小嶺哲雄 委員長)

ロードマップを引いてみると、3月までに立ち上げるのは難しい。
次年度30年度早めに、観光協会が立ち上がるように立ち上げられるようにしたい。そのことを、この計画にも盛り込みたい。

金城渉 委員)

商工会としては、理事会で議題として上がることはあるが、観光協会を設立するための具体的な動きはないということでしょうか。

中馬直樹(代理:田中守) 委員)

具体的な動きはない。

金城渉 委員)

行政が主体となって、まず組織体を完成させないと、財源も並行して進めないと計画は実行性が無い。

小嶺哲雄 委員長)

観光協会設立については別の会議で議論します。

金城渉 委員)

行政側からそのスケジュールを示さないといけないのでは。
どのぐらいの進行なのか?

小嶺哲雄 委員長)

まずは、この計画を作り上げていかないといけない。

金城渉 委員)

計画と観光協会は、並行して作らなければならないのでは。
3月までに、振興計画を作った後に、観光協会を作り始めるのですか。

小嶺哲雄 委員長)

合同委員会が11月に行われて、素案ができて、道筋ができれば、観光協会設立に向け、準備を始めます。

金城渉 委員)

この計画の内容は、8割は観光協会が主体となって行う事業ですね。

小嶺哲雄 委員長)

次回の合同委員会にある程度の素案ができてくる。観光協会設立に向けた道筋ができれば、そこから動いていく。

金城渉 委員)

早く道筋を見せていただきたい。早く見せてもらわないと、この会議が、絵に描いた餅にしかない。11月の会議までに出せるか？

小嶺哲雄 委員長)

設立準備委員会を作る構想はあるが、細かい内容はまだできていない。おいおいやってきます。

今日は、その議論をする場ではないので、先に進めてもらえないか。

花咲宏基 委員)

各提案者、総合計画、そして現状進めているものが主である。観光協会ができればさらに加速することができるが、観光協会が無ければできないということではない。

金城渉 委員)

現状まだ白紙の状況であるということが疑問。ずばり言って、密室でやっていないか？ということを知りたい。

メンバーありきで、密室でやっていないかという疑問がある。

小嶺哲雄 委員長)

それは全くない。

準備委員会を設立する際にはメンバー公募をかけるなどの手続きを踏む。しかし現状決定事項ではないのでそこまで言えない。

金城渉 委員)

誰に聞いたら観光協会の設立についていつやるのかがわかるのか。

今この委員会で時間を作って計画を作っている。それを実行したい。

小嶺哲雄 委員長)

計画を立てるのが先、それを進行させながら観光協会の立ち上げも行うということでご理解いただきたい。

花咲宏基 委員)

皆さんのおっしゃっていただいたことを整理すると、観光客の質と量に対する考えが、バラバラなので、質を求めるのか量を求めるのかお聞きしたい。

小嶺哲雄 委員長)

台風が少なかったので、8月に23,000人入った時にキャパオーバーの感じが強かった。フェリーが満員な状況で日帰り客などの受け入れが追いついていかない状況で、増やしてもいいかという点に懸念もある。日割りで700名が島に出入りしていた。

そういったこともあり、船が大型化し、運ぶ人数が増えることで、島は大丈夫か懸念するところ。

金城渉 委員)

それは事業者からの意見なのか。それは、個人的な感覚ですか。

小嶺哲雄 委員長)

事業者からいわれたこともある。昼食難民などについても聞いている。

金城渉 委員)

それを資料として出してほしい。

小嶺哲雄 委員長)

簡単には出せない。むずかしい。

お客さんから昼食が食べられなかったというクレームが出ているという報告があった。

どれくらいがあふれているかは分からない。

金城渉 委員)

どこが島の観光客のキャパなのかを知りたい。

業態によっては、パラソルなどのもっとお客さんが欲しい事業者もいる。個人的な意見か村全体としてなのか？根拠がないといけない。

小嶺哲雄 委員長)

データとしては出ていないが、質なのか量なのかということだったので、ひとつの情報として提供した。貴重な時間を、食事場所を探すのに無駄にしたらリピーターとして戻ってこないのではないか。

花咲宏基 委員)

今年の23,000人という数字を検証しなければいけない。船舶課にもクレームがくるとお聞きしている。

小嶺国土 委員)

予約が満員でも問い合わせがくる。需要はある。それに基づいて増便する、船を大型化するということを計画しているが、それを事業者がどう感じているのか調査してほしい。そのうえでの計画の修正が必要ではないか。

インフラを大型化するにはお金も時間もかかるので、そのあたりも踏まえた議論が必要だが、この場ではどちらがいいというのは決められないので、どうしたらいいのかという判断をしかねるところ。計画のなかで長期的な検証をしていくというのも踏まえていければいい。

金城渉 委員)

数値化することが重要。

データを出して、島のキャパについてレッドラインやイエローラインを出して、方向性を導かなければいけないのではないか。

小嶺国土 委員)

自然保護は、観光客が増えれば壊されるという問題があり、村民が全然知らない観光客がふえることへの抵抗もあるかと思うので、この計画が決まって、将来、決められるのではないか。

金城渉 委員)

あとは、各事業者が年間どのくらいの年商を目的としているか。商工会が、そのデータを把握して、受け入れキャパを考えていく。商工会が担う部分だと思う。

池松来 委員)

商売ベースで考えるだけでなく、自然環境をよりよく残せるという視点ももって欲しい。

小嶺哲雄 委員長)

それがキャパだと思う。それを計画に盛り込めたらと思う。

受入側のキャパと自然のストレスのバランスを考えることが重要。

金城肇 委員)

エコロジーは、制限して守るということ。荒らされる前に制限する重要性を見極めるべき。

ここで、先に決めなければならない。

環境はつぶされてから再生できるものではない。

ナショナルパークになって、環境省の方々も含めて、観光客の数の制限等検討していくことが必要。

花咲宏基 委員)

まとめると1が薄いということ。

金城渉 委員)

以前、小笠原が1日キャパシティが、900名だった。

先進地の情報を入れて欲しい。

長谷和典 委員)

制限したうえで、お客様に次に来てほしい島にしていかなければいけない。

今は7月、8月にどっと2万人のお客さんが来ている状況を村としてどうするかということだと思う。繁忙期以外でも海で泳げる。7月8月に来たくても来られなかった人が、また来たい島にする。つまり、予約をとりにくい島にすることが必要なのではないだろうか。いっぺんに汚されるよりは、お客さんが分割される方が、ごみも分割され、全体的に見れば環境ストレスも減っていく。目が届きやすい。そういう夢島にしたい。入域制限だけではなく本当に来てほしい島にしていけることが重要。

小嶺哲雄 委員長)

基本的には量より質を、皆さん、望んでいると思う。それをどうやって計画で反映していくか。移動には船が必須なので、そのあたりの検証が必要。一番コントロールしやすいのは船の本数。乗船定員を600人を450人に減らした。夏場にお客さんが来て儲かることもあるが、環境を失ってしまうということも考えなければならない。そのあたりを観光振興計画に踏まえていきたい。

金城渉 委員)

なるべく商工会員もオブザーバーでいいので参加していただきたい。経営に関わる部分ではあるから。僕らがここで話し合っても、経営者がこういった議論に参加していただきたい。

石川)

みなさんの意見をまとめて、各課等に確認をとり、再度メーリングリストに共有させていただく。

吉崎誠 委員)

環境についてなどもっと盛り込む内容を検討するために、あと 2 回でまとめていくことはスケジュール的に現実的なのか。

花咲宏基 委員)

一旦は、メーリングリストで今回の内容をまとめて共有させていただき、その後、委員会メンバーの皆さんに個別に回るなどしていけたらと思う。時間的に足りない場合、課長と相談して回数を増やす必要があるか考えていきたい。

小嶺哲雄 委員長)

11 月 8 日の合同委員会では、確定的なスケジュールではなく、さらに状況に応じて委員会も検討していきたい。

合同委員会の内容についてはまだ流動的だということ。

金城渉 委員)

事業者さんにもオブザーバーとして参加していただいたほうがいい。

勝手にやっているだろうということだと思っているかもしれない。

最後に意見をいただく機会を設けたら良い。

古波蔵善之介 オブザーバー)

まず何の計画なのかを知りたい。それを知らないとオブザーバーとして参加しても意味がないと思う。良い意見が出ているので。

田中さんが責められているような感じがしたが。

自然保護の部分が薄いのは感じる。100 年残していくという事から教育の面も入れていくべきと思う。

花咲宏基 委員)

次回 11 月 8 日は策定委員会の方も参加するという事なので少し時間を早めて実施する可能性がある。また相談させていただきたい。

小嶺哲雄 委員長)

皆さん、今日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。次回の会議までにまた提案をしていただきたい。ありがとうございます。